

# 紀州まるごとツアー

8月2日(月) ~ 8月4日(水)

IN 和歌山県立潮岬少年自然の家

	午前	午後	夜
1日目	施設向け出発 白良浜遊び	石拾い 施設到着	夕飯づくり 振り返り
2日目	くじらの博物館見学	イルカスイム体験	お楽しみタイム 振り返り
3日目	清掃・施設出発	お土産購入タイム メロン狩り・食べ放題	

**一日目:** 今回もキャンプ日和のもと始まりました。行きの車内から皆のテンションは高く、元気いっぱいです。初めの目的地、メロン狩り農園に到着しました。ビニルハウスに実った美味しそうメロンを自身で切り取りました。今すぐは食べられないですが、食べ頃を迎えるのがとても楽しみです。このあとはお楽しみメロン食べ放題です。冷えた食べ頃のメロンはとても甘く、何個もおかわりされていました。お腹の調子が心配な方もおられましたが、皆お腹いっぱい満足そうにされていました。施設に向かう途中で“志原海岸”というところに寄りました。こちらの石は海流の関係から全て丸く削られており、キレイな形をしています。今日と明日の夜の振り返りに色を塗る為の石を選び取りました。そして夕方過ぎに施設に到着しました。さすがに疲れの色が見えていましたが、楽しむ元気はあるようです。夜の振り返りは拾ってきた石に思い出を描きました。メロンだけではなく、海のキレイさを思い出にされている方もおられました。

**二日目:** 朝食作りから一日が始まりました。朝食はお馴染みの“パックサンド”です。具材を挟み焼く作業を知っているメンバーが、「こうするんだよ。」と教えている姿からしっかりと過去の経験が伝わっていると認識しました。朝食後、準備を済ませると、遠足に出発です。みんなが楽しみにされていた【くじらの博物館見学】と【イルカと一緒に泳ぐ体験】です。グループごとに分かれて行きました。イルカ体験は間近で見るイルカの大きさに驚き、たじろむ方もおられましたが、イルカの優しさに徐々に慣れ親しみながら、最後は一緒に泳がれていました。初めから積極的に関わろうとされる方は、何度もイルカに接近し、一緒に泳がれていました。くじらの博物館は、鯨漁の歴史や鯨の生体についてを標本や模型を通して学びました。屋外では、鯨やイルカのショーを楽しんだり、餌やりを見学したり、紀州に生息している生き物を見たりしました。最後に博物館でお土産を購入され、大満足の様子でした。施設に戻る道中では、ほとんどの方が休まれました。本日の夕飯はみんなで手分けして作る、「色々丼」です。【麻婆豆腐】、【豚キムチ】、【焼き鳥】のパートに分かれ作りました。どれもご飯のお供として最高なので、食べ終わっては何度もおかわりをされていました。夜の振り返りでは描くことが多すぎて、2つ描かれている方もおられました。

**三日目:** 朝は疲れから皆熟睡されており、ゆっくりと起きてこられました。片付けと朝食を済ませ、本来ならばすぐに白良浜へ向かうのですが、少しキャンプ全体で話し合う事になり、そこに時間を費やしました。プログラムを楽しむだけがキャンプではないので、疲れからしんどい時間でしたが、頑張ってくださいました。予定時間が大幅に遅れましたが、施設を出発し、白良浜へ向かいました。車内は話し合いから暗い雰囲気でしたが、浜に到着すると、気持ちを切り替え、存分に楽しまれていました。短い時間でしたが、海水浴を堪能されたようで、戻ってくる表情は明るさを取り戻されていました。そしてキャンプ最後の寄り道、「とれとれ市場」に到着し、お土産を購入されました。「家族のために…」という声を沢山伺え、メンバーの優しさを感じました。帰路は沢山の体験から熟睡されている方や、DVDを鑑賞されている方、最後まで元気に談笑されている方がおられました。親御さまにお会いするとホツとしたような顔が見られました。



## <キャンプ総括>

紀州まるごとツアーにご参加いただきありがとうございました。当キャンプは他のキャンプと大きく異なり、紀州の魅力を感じていただく為に、数々の箇所を巡り、楽しんでいただきます。故に【キャンプ】という感覚が薄れてしまい、【観光】という認識を持たれてしまいがちになります。まさに今回それに大きく悩まされました。キャンプにおいて大切にしている事は、「自分の事よりみんなの事を考えているか」です。今回メンバーの意識には「楽しみたい!!」気持ちが大きく、周りを見て考えて動いたり、発言されたりする事に何度も指摘、指導を受けていました。正直、指導側の私もしんどくなる程、訴えていましたので、受ける側は本当に辛かったと思います。ご本人達の頑張りはもちろんですが、我々もそのような仕向ける環境作りにおいては重責を感じます。少しでも【楽しい気持ち】が割合を占められるように今回の経験を考慮し、反省し、努めて参ります。是非とも、次年度もご参加いただければ幸いです。ありがとうございました。

(竹中 哲郎)